

令和元年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－2号)

農林総合研究センター
令和元年5月28日調査

気象経過

<平年対比>

【平均気温】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高くなった(平年差:金沢+4.3℃、輪島+3.0℃)。
- ・5月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高くなった(平年差:金沢+2.9℃、輪島+3.3℃)。

【日照時間】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多くなった(平年比:金沢157%、輪島154%)。
- ・5月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多くなった(平年比:金沢183%、輪島184%)。

【降水量】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少なかった(平年比:金沢23%、輪島54%)。
- ・5月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多くなった(平年比:金沢174%、輪島162%)。

【1ヶ月予報】

5月23日発表の1か月予報(5月25日～6月24日)では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 草丈は、コシヒカリは平年比84～126%(県平均107%:加賀:107%、能登:107%)、と平年及び前年よりやや長い。

ゆめみづほは、近年比93～117%(県平均:108%、加賀:105%、能登:114%)と加賀地域は近年及び前年よりやや長く、能登地域は近年より長く前年並。

ひやくまん穀は、近年比87%～142%(県平均:110%、加賀:110%、能登119%)と加賀地域で近年並で前年より長く、能登地域は近年及び前年より長い。

2. 茎数は、コシヒカリは平年比75～235%(県平均:142%、加賀:141%、能登144%)と平年及び前年より多い。

ゆめみづほは、近年比98～228%(県平均:164%、加賀:171%、能登:146%)と近年及び前年より多い。

ひやくまん穀は、近年比99%～170%(県平均:128%、加賀:118%、能登:143%)となっており加賀地域で近年よりやや多く前年より多く、能登地域では近年及び前年より多い。

3. 葉齢は、コシヒカリは平年比-0.5葉～+1.3葉(県平均:+0.6葉、加賀:+0.5葉、能登:+0.7葉)、ゆめみづほは近年比-0.5葉～+1.2葉(県平均:+0.6葉、加賀:+0.4葉、能登:+0.8葉)、ひやくまん穀は、近年比-1.1葉～+2.2葉(県平均:+0.7葉、加賀:-0.1葉、能登:+0.7葉)となっている。

葉齢展開は、コシヒカリは平年に比べ3日程度早く、前年より3～4日早い。ゆめみづほは近年より3日程度早く前年より3～4日早い。ひやくまん穀は近年及び前年より4～5日程度早い。

㎡当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	189本	（平年比 142%	前年比 179%）	10.5	本/株
	加賀	200本	（平年比 141%	前年比 197%）	11.0	本/株
	能登	172本	（平年比 144%	前年比 152%）	9.8	本/株
ゆめみづほ	県平均	241本	（近年比 164%	前年比 186%）	13.5	本/株
	加賀	277本	（近年比 171%	前年比 201%）	15.5	本/株
	能登	168本	（近年比 146%	前年比 150%）	9.5	本/株
ひやくまん穀	県平均	114本	（近年比 128%	前年比 156%）	5.8	本/株
	加賀	123本	（近年比 118%	前年比 161%）	6.4	本/株
	能登	105本	（近年比 143%	前年比 150%）	5.2	本/株

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が県内全域で散見されるほか、一部地域では、イネゾウムシの食害が散見されている。

また、雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は平年より多くなっている。

当面の対策

1. **田植後1ヶ月**を目途に**中干しを開始**する。**既に茎数が目標穂数の7割を超えている場合は直ちに中干しを開始**する。

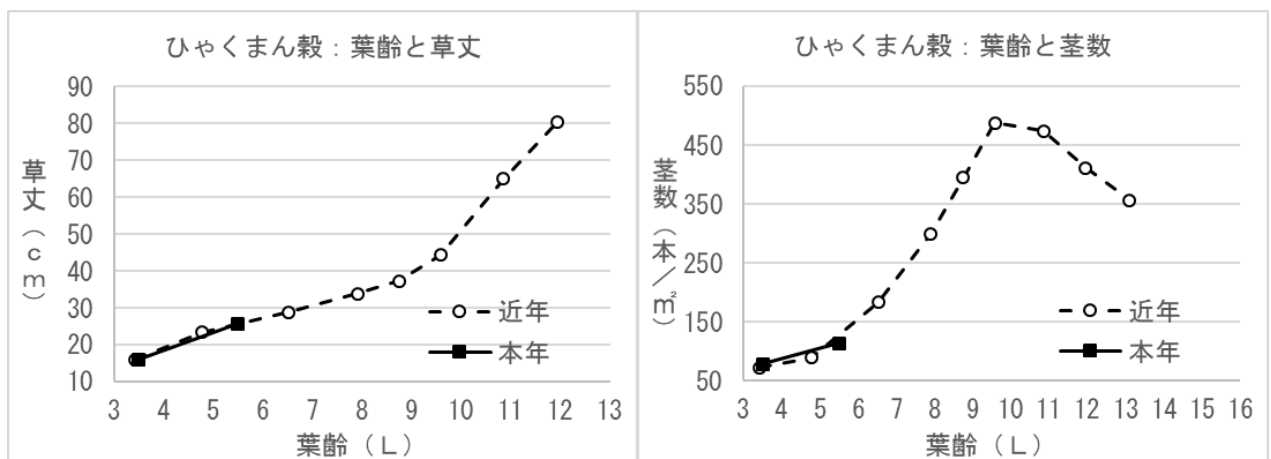
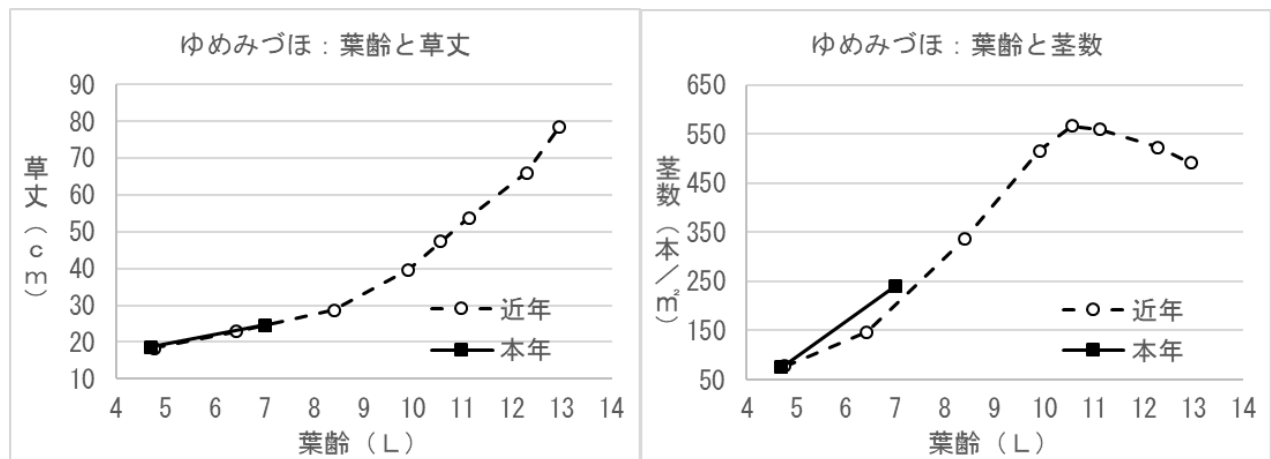
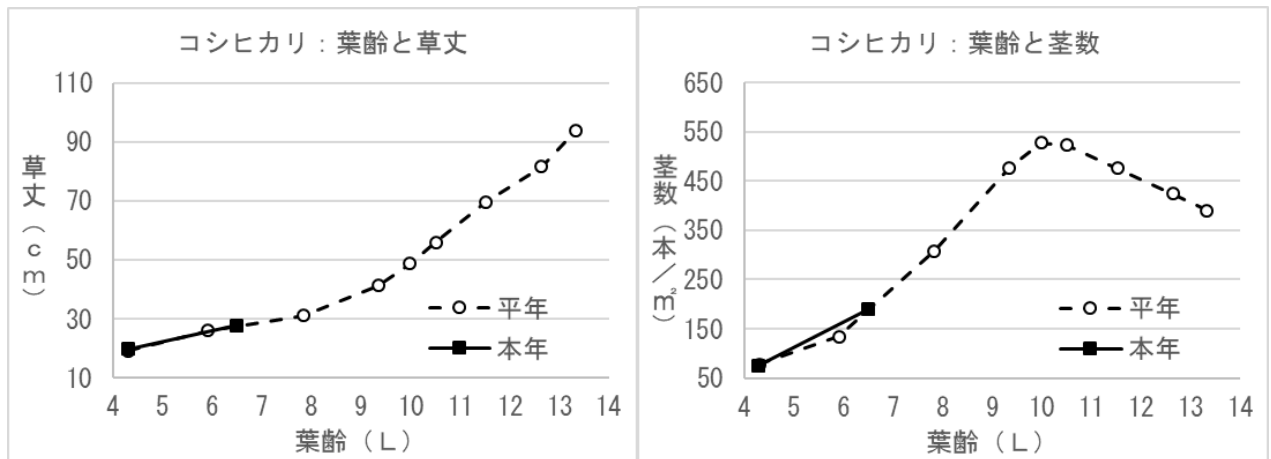
		ゆめみづほ	コシヒカリ	ひやくまん穀	備 考
目標穂数	㎡当たり	490	390	360	
中干し	㎡当たり	343	273	252	
開始茎数	株当たり	18～19	14～15	14	60株植の場合

- ・ これまで高温、多日照が続いており、茎数が急激に増加してきている。
 - ・ 5月27日発表の異常天候早期警戒情報によると「6月1日頃からかなりの高温」と予想されており、今後、生育の早まりと共に茎数の急激な増加が見込まれる。
2. **中干しを確実に実施**するため、**溝切り**を行うこと。
 3. 中干しの程度は田面に小さな亀裂が入る程度とし、ひび割れができれば適宜入水する。ただし、茎数過剰が見込まれる場合は、田面に幅1～2cm程度の亀裂が入るまで干す。
 4. 用水をため池等に依存している地域では、集落や地域単位で限られた水源の計画的な利用に努める。なお、関係機関との連携を密にし、ため池の状態を継続的に把握する。
 5. 本田に放置された補植苗は、本田のいもち病の伝染源となり早期多発を招くので、早急に取り除く。
 6. 移植時に箱施薬を実施していない圃場では、いもち病の防除適期を逸しないように予防剤を必ず散布すること。散布時期の目安は田植時期にかかわらず下記のとおりである。
加賀平坦部：6月10～15日 加賀常発地：6月10日頃
能登平坦部：6月10～20日 能登常発地：6月10～15日
 7. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、6月上旬に1株当たり1卵塊以上認められたら、直ちに防除を行なうこと。
 8. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布すること。
 9. **斑点米カメムシ類は、気温の上昇に伴い急激に増加しやすいので、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底すること。**
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意すること。

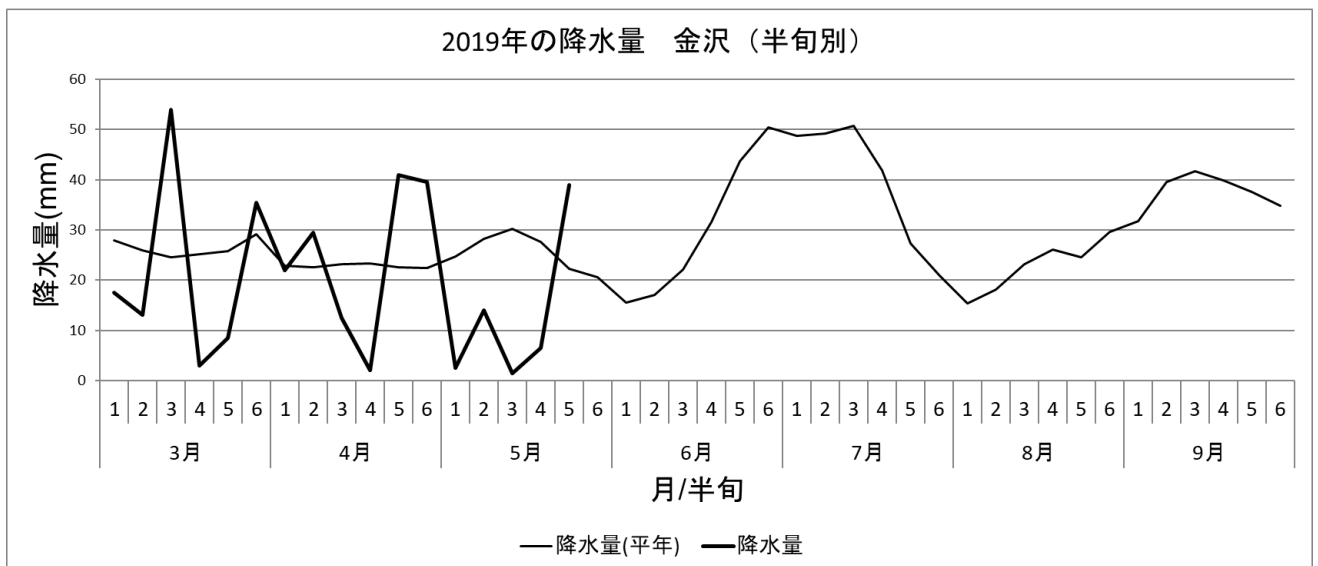
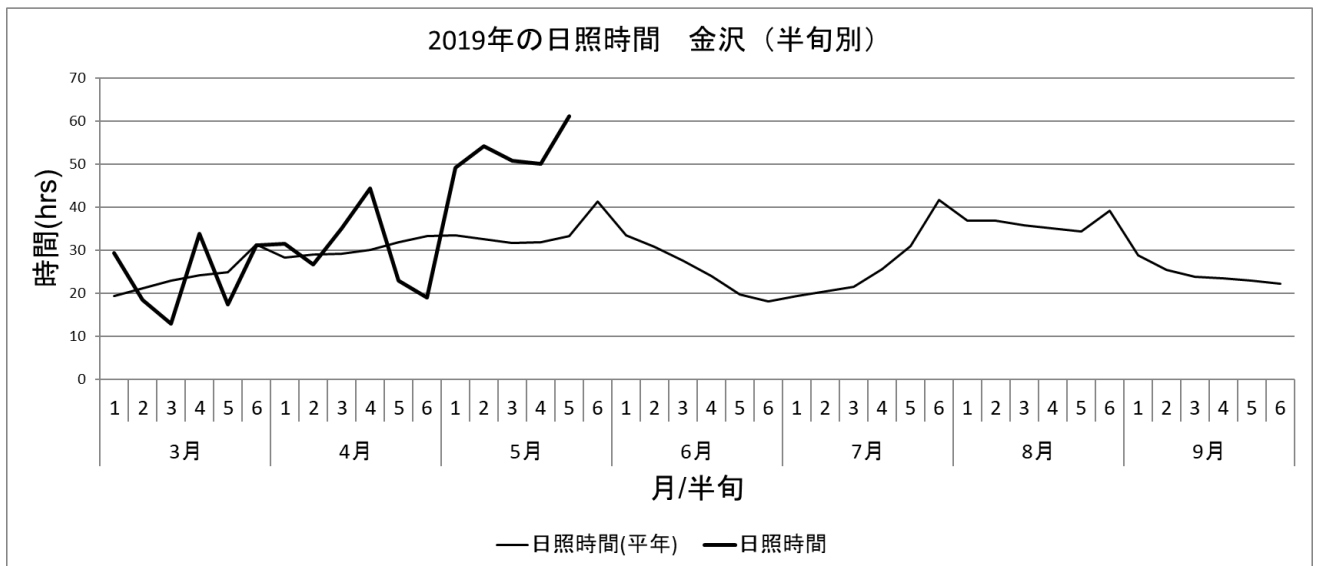
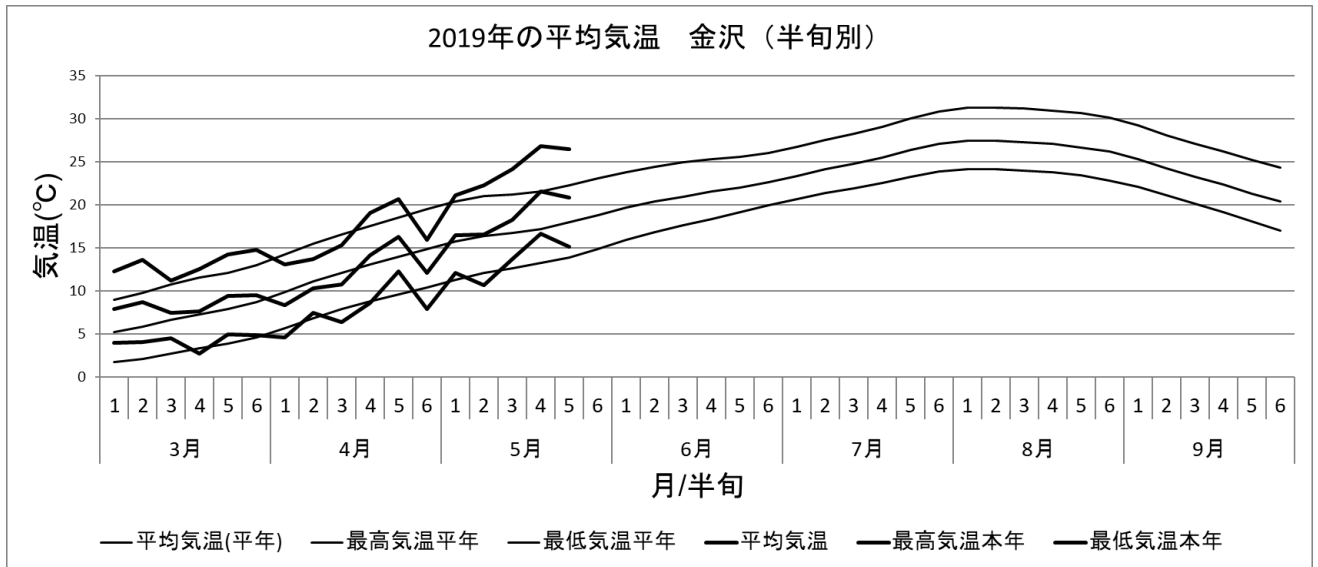
（次ページに続く）

<参考：葉齢の展開速度と草丈の伸長・茎数の増加について>

葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年（近年）と比較すると、草丈の伸長はコシヒカリ、ゆめみづほ、ひやくまん穀のいずれも平年より長いものの葉齢展開に見合った生育進度となっている。茎数の増加についても、コシヒカリ、ゆめみづほ、ひやくまん穀のいずれも平年（近年）より多いものの、コシヒカリ、ひやくまん穀については葉齢の展開速度に見合った生育進度、ゆめみづほについては葉齢展開よりやや早い生育進度となっている。



気象経過イメージ（金沢気象台）



気象経過イメージ（金沢気象台）

